

基調講演「健康いきがい活動を拓く地域共生社会とは」

松山 博光 (大妻女子大学 名誉教授)

75歳からの平均余命は40年前と比較すると、男性で約4年、女性では約6年長くなっています。このように超高齢社会の到来に対して、これからの日本は長くなる高齢期への備えが必要となってきました。



1. 長寿社会における「健康生きがい活動」の意義と健康生きがい活動を拓く地域共生社会の構成要素

長寿社会における健康生きがい活動については、老人福祉法の基本理念の2条に「豊富な知識と経験を有する者として敬愛されるとともに、生きがいを持てる健全で安らかな生活を保障されるものとする」とあり、この中に、「健康生きがい権」が入っていると、辻 哲夫会長また京極高宣先生が提唱されています。

自助努力にはなるが、心身が健康で、それぞれの経験を持って社会参加していく。希望と能力とに応じた仕事や社会的活動に参加する機会が用意されている。さらに国及び地方公共団体は、老人の福祉(=幸せ)を増進する責務を有としています。その実現のための「健康生きがい活動を拓く地域共生社会」とは、複雑多様な社会構造の変化や人々の暮らしの変化を踏まえ、制度・分野ごとの「縦割り」や「支える側」「支えられる側」という従来の関係を超越して、地域住民や地域の多様な主体が参画し、人と人、人と社会的資源が世代や分野を超越して“つながる”ことで、住民一人ひとりが生きがいや役割をもち、助け合いながら健康に暮らしていくことのできる包摂的なコミュニティ、地域や社会を創る、という考え方です。

2. 人と環境の視点から見た生態学的エコマップ

では「地域共生社会の仕組み」はどうなっているのかというと、「公助、民助、近助、自助、私助、企助」で構成されている。そして「互助」という連携・ネットワークによって結ばれている形のもの、これを「共助」という形で表しました。この考え方をもとに、人と環境の視点から構築したのが「健康いきがい活動を拓く地域共生社会」つまり「共助のエコマップ」です。私のオリジナルになりますが、ぜひいろいろ意見をいただければと思います。

$$\text{地域共生社会} = (\text{公助} + \text{民(近)助} + \text{自(私)助} + \text{企助}) \times \text{互助(連携・ネットワーク)} = \text{共助} = \text{ノーマライゼーション}$$

